

1. 今月の活動；国連経済社会理事会、副大臣面会、マニフェスト、ホームレス／DOTS

【 国連経済社会理事会 】

ジュネーブで7月6日から4日間開催された国連経済社会理事会ハイレベルセグメントに日本リザルツがオブザーバー参加した。今回は、「国際保健目標の実現に向けて」というテーマで、国連事務総長、世界銀行副総裁、WHO事務局長など多くの国際機関の長と国連の理事会メンバーである各国政府代表が集まり議論を重ねた。ミレニアム開発目標(MDGs)をふくむ国際合意開発目標(IADGs)へのコミットメントの再確認、H1N1・H5N1などの新型感染症についての国際協力の必要性、エイズ予防・治療・ケア・サポートの強化、マラリア対策の強化、結核の予防・発見・治療のための革新的戦略の開発、とくにエイズと結核との二重感染、多剤耐性結核・超多剤耐性結核への対策の必要性、非感染疾病対策の必要性、保健人材の世界的な偏りの是正など多岐にわたる課題が会議宣言に盛り込まれた。日本政府は二日目に外務副大臣が日本の保健分野の支援、とくに日本の経験・ノウハウの発展途上国への活用ということで、カンボジアでの結核対策とザンビアでの保健システム強化対策について発表した。

【 厚生労働副大臣との面会 】

7月23日に渡辺孝男厚生労働副大臣にSTBJ事務局・日本リザルツが面会し、STBJ内に6月に創設されたMDR基金への公的支援をお願いする要望書を手渡した。副大臣からは、耐性結核に対する新薬治験には大いに期待しているので今後どのような形で厚生労働省の支援が可能か検討するという御返事をいただいた。その後、要望文を厚生労働省関係課、外務省、結核議員連盟にも提出した。

【 各党マニフェストへの要望 】

衆参議両院の国会議員、各党の政策調査会や政策担当者へ、日本リザルツから、「①マイクロクレジットの普及、②結核対策の拡充、③教育基金、④安全な水、⑤国際連帯税の実現」をマニフェストへ盛り込むように要望した。その後、マニフェスト中の地方分権や道州制がクローズアップされるなかで、「①道州制を補完する機能としての“マイクロクレジットの導入”、②NGOとの連携や国際協力の強化、③国内外の結核対策の拡充」の必要性を訴えた。

【 ホームレス・結核／DOTS体験者の集い“ひまわりの会”による人形劇 】

8月8日、ホームレスの自立を応援している「ビッグイシュー基金」の定例サロンにて人形劇が催された。ホームレスとなった後に結核を発症して、DOTS(直接観察下短期化学療法)を受けることで完治した人々が集い、お互いの体験を語り励まし支え合う「ひまわりの会」のメンバーによる人形劇の初演が、40名を超えるビッグイシュー販売員やボランティア、スタッフ等の観客を前に行われた。この日の劇は、“結核”のことを正しく知り、結核の予防、発見、治療に向けた啓発のメッセージを人形劇で、分かりやすく、同じ境遇にいた仲間(当事者)たちが伝えるという主旨で企画された。ビッグイシュー基金、結核研究所、新宿ホームレス支援機構、ICU人形劇研究会「パペット」学生メンバー、日本リザルツ等多くのボランティアの方々のご協力と参画により実現した。劇を観たある方は、「今まで結核のことを知らなかったが、この人形劇を通してはじめて知り、自分の命を大切にしようと思った。」等々、好評を得た。これを機に、この人形劇の上演の機会を増やし、一般市民や企業からの理解と支援の輪、一緒に活動する仲間たちの参画の輪も広げていけたらと思う。



「ひまわりの会」による人形劇



ビッグイシュー基金の定例サロンにて上演



人形劇を終えて拍手を受けるメンバーたち

【 国際交流基金日米センターの活動 】

国際交流基金日米センターによる大学院生招へいプログラムの一環として来日した、ジョンスホプキンス大学で環境問題を専攻するテッド・アルコーン氏と、ミシガン大学で公衆衛生を専攻するカレン・タム氏に対し、日本リザルツは、日本の各界要人、知的コミュニティとの交流を図るための面会を設定し、8月20日に同行した。財務省国際局、外務省国際協力局、厚労省国際課、STBJ 推進議員連盟の浜田昌良議員、川田龍平議員、結核予防会顧問島尾忠男先生、東京大学医学部神馬征峰教授、早稲田大学勝間靖教授、STBJ 事務局を訪問し、国際保健分野における日本の取り組み等について、積極的に意見交換を行った。

【 日本とフィリピン 結核患者との衛星テレビ会議 】

9月2日、ストップ結核パートナーシップ日本の主催で世界銀行東京事務所の会議室とJICAフィリピン(マニラ)・オフィスにて日本側4名、フィリピン側10名の結核患者や元結核患者が集まり、衛星回線を通じたテレビ会議が行われた。結核患者同士が語らう日本で初めての試みである。日本リザルツから元結核患者の西尾が参加した。会議では結核と診断されたとき、どう感じたか、家族の反応、薬の服用などで困ったことなどについて経験が語られ活発な意見交換が行われた。そのなかで結核の治療にかかる費用については国の公費で賄われる日本とは違い、フィリピンでは保険に入っていない結核患者は、すべて自費で高額な抗結核薬を買う必要があるといった点は大きな違いであると感じた。しかし、そうした行政サービスや法制度の不備を“カノッサ・ヘルスセンター”などカトリック系の民間団体が抗結核薬を無料配布したり、コミュニケーション・ヘルプワーカーや元結核患者のボランティア等が患者さんを支援している点は日本も見習うべき点であると感じた。結核患者の国内外における連携ネットワークや取り組みの強化をはかり、現在進めている患者さんのための「結核患者憲章」を具体化し、これを広く発信して、昨年7月に発表した世界の結核死166万人の1割を毎年削減するとして「ストップ結核ジャパンアクションプラン」の取り組みをより前進させる一つの大きな流れにしていく必要があると感じた。こうした世界各国の結核患者同士の意見交換の機会が、今後も継続されていくことを期待する。



日本側TV会議の様子



体験を語る日本の患者さん



フィリピンの患者さん側の様子

2. ストップ結核パートナーシップの動き

【 新技術に向けて 】

4月、アエラス世界結核ワクチン基金とそのパートナー機関は、南アフリカ結核ワクチンイニシアチブ (SATVI) がウェスタンケープで行っている試験フィールドにて、幼児用の結核ワクチンの候補薬2つの安全性とその効果試験を開始すると発表した。

5月、HIV/エイズ・マラリア・結核の治療薬を提供する国際医療品購入ファシリティ、ユニットエイドは多剤耐性結核菌(MDR-TB)の抑制を目的とした2つの進行中のプロジェクト、「多剤耐性結核菌スケールアップイニシアティブ」と「EXPAND-TB」への新たな資金提供を承認しました。「MDR-TB スケールアップイニシアティブ」では第二段階薬を受け取れる患者数の増加と、薬の流通を改善することを求めている。同じく5月、結核薬開発世界連合は4つの新薬発見にむけ共同研究を進めてゆくことに合意した。このプロジェクトのどれもが耐性結核への潜在的な化合物となる可能性がある。こうした一連の動きは、期待されている結核の新薬開発に向けた一歩といえることができる。

【 アドボカシーの充実に向けて 】

3月、ダイナミックなインターネット上のコンテンツ管理システム Advocacy Toolkit が立ち上がった。複数の発信者から得られる様々な情報を、簡単にアクセスできるように一ヶ所にまとめたもので、この種のシステムとしては初めてのもの。ユーザー自身によるデザインが可能で、閲覧者はこのツールを使いリサーチができ、アドボカシーのサポート情報、資料などをワンクリックでアレンジし掲載することができる。また、3月にはストップ結核パートナーの Eagle Peak Media によ

て制作されたドキュメンタリー映画、『On the Lake—Life and Love in a Distant Place』が、アメリカの公共放送で放映された。この映画は、20世紀の前半、まだ結核の有効な治療法がなかった頃、湖のほとりの結核療養所に閉じ込められたロードアイランドの人々の生活、愛、そして喪失を描いている。

【 英国の結核議員連盟の動き 】

6月、イギリス結核議連、英国超党派議員連盟の事務局から昨年度の活動について報告書が届いた。日本の議連、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟が活動していく上でも興味深い内容となっている。同議連は2006年に自由党・保守党・労働党など全党からの議員によって設立し、国際的な結核問題について、英国政府、議員が意識を高め、対策を加速することを目標に掲げている。同事務局の運営は、英国リザルツが支援している。

具体的な活動としては、ニュースレター、ウェブサイトの運営などのコミュニケーション活動、世界銀行、英国保健局、英国国際開発省(DFID)、世界基金等への要請文の提出、「行動へのアジェンダ：国際結核問題への英国の対応拡大」など報告書の発行、マラウイへの視察ツアー、専門家らを招いた会議を毎月開催することなどである。また、議会において、51の結核に関する質疑が行われ(文書:48、口頭:3)、このうち10の質問は上院へ、41の質問は下院で行われた。本年は国際結核肺疾患予防連合大会(メキシコ、12月)で、議員によるワークショップを開催する予定である。報告書はすでに翻訳済みで日本の結核議員連盟へ配布し、共有していく予定である。

3. マイクロクレジット(MC) ～くにたち発；女性のためのマイクロクレジット～

マイクロクレジット近況報告(8)

【 “女性と貧困を考える” 円卓会議 】

8月18日、国立市公民館で「女性と貧困を考える円卓会議」が開かれた。今回の企画は、「高齢の女性が、突然病気などでまとまったお金が必要になった時に使えるような昔ながらの“無尽講”みたいなものを作れないかしら？」というある方の何気ないひと言からはじまった。参加者は、車椅子の方、知的障害のある人々が地域で働き暮らす場を作った方、ひとり親支援の自助グループを立ち上げている方、高齢者福祉に取り組んでおられる方、地域での農と食と職のたまり場づくりをはじめた方、アルコール依存の会に通い精神障害当事者活動をされている方、DV被害相談に携わっている方、ひとり出版社をやっている方などの市民および活動家、国立・国分寺の市議など。

最初に一橋大学経済研究所の黒崎卓先生からアジアの貧困、とりわけ女性にマイクロファイナンスがなぜ有効なのか、また、日本の女性の貧困にはマイクロファイナンスは有効であるかについて話され、次に日本リザルツから、最新のマイクロクレジットサミットキャンペーン2009レポートの説明、プラネット・ファイナンスのベバクア事務局長からもマイクロファイナンスに関わる貴重な情報提供をしていただいた。その後、集まった20人で熱い会議となった。従来のセーフティーネットから漏れており公的福祉で行うべき領域と女性の経済的な自立をサポートする領域とでは必要となるお金の額やその手法が異なり、その区分け・整理が必要であることなど。そして、なによりこの100年に一度と言われる大不況の中にあって、地域でお互いが支え合い、分かち合い、困っている人からのSOS(助け)が受けとめられることの大切さが確認された。「人の縁がネットワークをつくり、その一人ひとりの知恵と力を出し合って困難な状況を乗り越えていく、この循環こそが人間が本来もっている良さなのではないか、それを具現化したもののひとつがマイクロファイナンスである」と感じている。次回はさらに踏み込んだ具体的な事例を話し合い、より具体的に進めていく予定である。一人では無理かもしれないことが、集まったみんなとなら必ずやれると実感できた。一緒に取り組む方々からの参加を心よりお待ちしております。

国立市議会議員：上村 和子



黒崎教授 (一橋大学経済研究所)



「女性と貧困を考える円卓会議」討論の様子



翻訳作業中に笑顔をみせる白地さん

4. パートナー / ボランティアの皆さまからの声

～ 白地 祐輝さん ～

日本リザルツでのインターンに参加してから、3ヶ月近くがたちました。米国に留学していた経験を活かし、英語文献の翻訳のお手伝いをさせていただいています。オフィスの方々には優しく接していただき、色々なことを見て学ぶ機会がありました。特に二つ、強く思ったことがあります。白須事務局長率いる日本リザルツはアクションに積極的だ！ということ、二つ目にこの活動にもっと若い人が気軽に参加できるよう、工夫を凝らしてゆくべきだ、ということです。「問題が沢山あるよね」と嘆くのではなく、「じゃあ自分達ができることからやってみよう！」と、とにかく行動してみる。それはビジネスであれ政治であれ、目標を達成するための一番重要な要素だと思うのです。基本的なことだけど、実践できている人は多くない。そういうスピリットを強く感じました。同時に、若者の参加者が少ないことも感じました。もっと大学と提携したり、ネットのコミュニティを利用して、若い人たちと取り組むことも非常に重要かと思います。来年から私は民間企業で働くこととなりますが、今後もリザルツさんとのつながりを保ち、より良い世の中をどう創ってゆか、考え続けたいと思います。

インターン：白地祐輝（前項右下の写真）

5. お知らせ

- 【 第3回ストップ結核ジャパンアクションプランフォローアップ会合 】
9月15日(火) 午前10時30分～11時30分 外務省(南庁舎287号室)にて開催
- 【 NGO 外務省定期協議会2009年度第2回連携推進委員会 】
9月15日(火) 午後3時00分～5時30分 外務省会議室にて開催 日本リザルツの白須と狩野がオブザーバー参加
- 【 第88回 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会 】
9月17日(木) 午後3時～5時 外務省 669号室にて開催
- 【 第3回 国際連帯税を推進する市民の会(アシスト)運営委員会 】
9月24日(木) 午後6時30分～ 文京スポーツセンターにて開催
- 【 ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)常任理事会 】
9月25日(金) 午後4時30分 結核予防会水道橋ビル 会議室にて開催
- 【 ストップ結核パートナー国際政策諮問委員会(AAC:アドボカシー・アドバイザリー・コミッティ) 】
9月28日(月)・29日(火) ワシントンDCにて開かれる。日本リザルツの白須と狩野が出席する予定
- 【 国連大学/ユネスコ国際会議「グローバリゼーションとアフリカ」 】
9月28日(月)、29日(火) 国連大学本部 ウ・タント国際会議場にて開催
- 【 グローバルフェスタ 】
10月3日(土)～4日(日) 午前10時00分～ 午後5時00分 日比谷公園にて開催
- 【 アジア連帯税経済フォーラム 2009 】
11月7日(土)～11日(水) 国連大学本部 ウ・タント国際会議場・レセプションホーム、
青山学院大学・青学会館 にて開催 *日程により場所が変わります。
- 【 「動く→動かす」(旧名称; GCAP Japan) 】
日本リザルツの小川 沙良が運営委員と政策チームのメンバーとなりました。

当マンスリーレターに関するご質問・ご意見などございましたら info@results.jp までご連絡ください。

ご寄附のお願い:世界の貧困・保健問題の解決のため、政策提言活動を行っております。持続的な活動を続けるためにご支援をお願いいたします。郵便局の払い込み用紙に、口座番号00170-9-581459(加入者日本リザルツ)とご記入ください。便利な自動口座引落としについてはTEL:03-5280-2888 までお問い合わせ下さい。

リザルツは、政治家やメディアと協力し、貧困に苦しむ人々の声を政策に反映させ、「貧困と飢餓のない世界」を創ろうと活動している国際市民グループ(NGO)です。日本の他、米国、カナダ、英国、フランス、豪州、ドイツ、メキシコなどで活動しています。日本リザルツは1989年の発足以来、ODA(政府開発援助)政策において、貧困削減への費用対効果が高く、且つ、顔の見える援助政策について、政府に提言しています。リザルツのユニークな活動方法は、草の根の市民から、国務長官のヒラリー・クリントン氏、経済学者ジェフリー・サックス氏、元南アフリカ大統領ネルソン・マンデラ氏など世界の著名人達に至るまで、幅広い層の支持を得ています。マイクロクレジットでノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏は、日本リザルツの名誉顧問です。